

施設利活用

伊与喜・佐賀北部活性化を 地域・所有者と連携協議で

問 今年3月に休校になった伊与喜小学校について、伊与喜地域の活性化のための有効活用をどう考えるか。

答 岡本教育次長

施設の利活用については、令和5年度に入ってから協議をすることになっている。

今後、関係する6地区の区長をはじめ、地域のみなさんの意見を聞いていく。



議員 佐知 植田

問 地域の住民からは健康づくり教室や調理実習、モーニング等に使いたいとの意見があるが、使用は可能か。

答 また、自然体験型修学旅行、佐賀温泉との相互利活用、スポーツ合宿等で利用は可能か。

答 岡本教育次長

校舎の利活用については、当面、教育委員会に申請して活用頂きたい。但し、大幅に内部を改装する場合は、6地域の同意を得た上で、廃校の手続き等をして、補助金等を活用しながら進めていくことになる。

その場合、使い方などを相談し、当面、今の形でできるのか、又は、大きく変容して使うのかを打ち合わせしていくこと

になる。地域の住民ニーズに合っているか、中長期的にも望んでいるかを大切に、今後、地域の活性化と住民の望むことを確認しながら検討していく。



伊与喜小学校休校記念式典の様子(3月26日)



問 佐賀北部の活性化のための佐賀温泉の有効活用について問う。

答 渡辺企画調整室長

拳ノ川を中心とする佐賀北部地域は、高規格道路の延伸に伴い、人口減少、過疎化が急激に加速し、真つ先に影響を受けると危惧している。

また、佐賀温泉は、避難場所でもあり、休業が続けば、災害時の避難拠点の喪失にもなる。

施設は民間企業の所有物のため、直接的な支援は困難だが、佐賀温泉を核とした地域の維持活性化施策を模索している。

今年度はその調査検討の年と位置づけており、全国の先進事例なども参考にしながら、所有者と連携協力し協議を進める。

問 医療・保健・福祉の拠点としての強みを活かした充実と発展策を問う。

答 渡辺企画調整室長

周辺の拳ノ川診療所、集落活動センター佐賀北部、あつたかふれあいセンターこぶし、高齢者生活福祉センターこぶしなどの強みも活かしつつ、

外部からも人を呼び込み、観光や地域の振興に繋げて行きたい。そのためには、実績のある民間企業のノウハウを取り入れることも必要となる。

サービス利用

申請方法等を
分かりやすく
必要に応じ
個別支援で対応

問 各種サービスについて申請方法が分かりづらいとの住民からの声がある。

近隣の市町村では、他機関等とも連携し、独自のリーフレット等を作成し、配布しているが、当町での対応と工夫について問う。

答 佐田健康福祉課長

デジタル機器の活用を推進しながらも、福祉の本質は個別支援と考え、個人に応じた配慮をしながら制度の説明等にあたっては、

今後も、様々な方法による周知、啓発に努めながら、必要に応じて個別支援にて対応していく。